

1. 研究概要説明

日本財団の調査によると日本の学生は自分自身や将来に対して前向きに捉えていると回答する割合が調査6カ国のうちもっとも低いことが明らかにされている。そこで自分自身に対し前向きに捉えられるようになるには内的要因だけでなく、学生を取り囲む外的要因のデザインが必要なのではないかと考えた。ここでは、時間の制約と空間の2つの要素に焦点を絞り、ワークショップを実施した。

2. 研究背景

質問：自分自身について、以下の項目に同意しますか。(n=1000)

	日本	アメリカ	イギリス	中国	韓国	インド
将来の夢を持っている	60.1	84.7	82.0	88.2	73.5	88.4
自分は他人から必要とされている	56.8	73.0	71.5	85.5	70.1	70.2
自分には人に誇れる個性がある	53.5	81.1	75.4	84.8	65.6	83.9

※以下のフォームのデータを用い自身で作成

日本財団https://www.nippon-foundation.or.jp/wp-content/uploads/2024/03/new_pr_20240403_03.pdf

将来や自身について前向きに捉えている割合(内的なもの)が調査6カ国のうちもっとも低い

→内的ではなく外的な要素に工夫を入れてみるのはどうか

→空間や制約という外的要因が学生の前向きな思考の一要因にならないか

3-1. リサーチクエスション

どのような条件を設定すればアイデアを出しやすい場づくりができるだろうか？

3-2. 仮説

時間の制約がアイデア出しを加速させる要因になるだろうか。また、仕切りのないオープンな空間がアイデアを創発させやすくなるだろうか。

4. 研究方法：ワークショップ

対象：山口大学附属中学校美術部・技術部の生徒60人
中学1年生から3年生

テーマ「将来なりたい姿・ありたい姿」

モノを用いて想いを視覚化する→他の学生と共有

30人×2クラス.各クラス1人のファシリテーター

①時間の制約あり・広い空間 (30分)
ファシリテーターが残り時間15分、10分、5分、3分、1分前にこまめに時間を伝える

②時間の制約なし・広い空間 (30分)

ファシリテーターは30分という制限時間だけ伝える

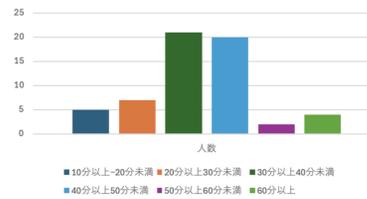
※時間の制約：分刻みで時間を確認し制限があることを伝えること

※このワークショップは山口大学基金による支援・宇部市役所の協力により実施

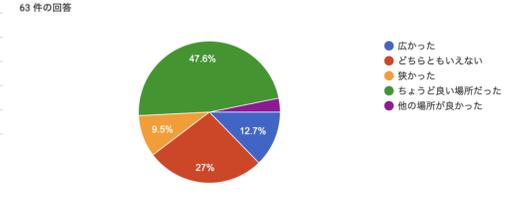
5. 実験結果 学生のアウトプットの一部↓



アウトプットの時間は何が適切か



オープンスペースでのアウトプットはどうでしたか。63件の回答



設定時間30分に対し30-40分がちょうど良いと回答する学生が最多

オープンスペース (35人収容の教室使用) でのアウトプットはちょうど良いと回答する学生が約半数

時間の制約があるクラスもないクラスも63人中58人は30分以内に作成し終えた

6. 考察・課題

時間の制約：アイデア出しを加速させる要因になるかわからない→条件、アンケート項目の不足
オープンスペース：広い空間で自身の場所を見つける→自由な表現に繋がる可能性

7. 今後の展望

- ・テーマが抽象的 (「将来」の多義性)
- ワークショップのテーマ自体の再考
- ・部屋の広さや制約の変更・再定義
- ・高校生、大学生対象
- ・内的問題要因の考察→アイデアを出す場合の障壁になるものを調査
- ※デンマークのリビングラボ訪問・聞き取り調査

8. 参考資料

国立教育政策研究所文庫施設研究センター (2023) 「創造的な学習空間の創出に関する調査研究」 報告書
https://www.nier.go.jp/05_kenkyu_seika/pdf_seika/r05/r0506-01_kenkyuhonbun.pdf
日本財団 (2024) 第62回一国や社会に対する意識 (6カ国調査) 一報告書
https://www.nipponfoundation.or.jp/wpcontent/uploads/2024/03/new_pr_20240403_03.pdf